

お知らせ:次回発信日は**10月17日**週報(予定)Jミルクが**2024年9月27日に公表**した「需給見通し(※2024年8月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・8月の生乳需給実績について、飲用等向(日均量)は、乳価改定から1年が経過したものの前年同期比では▲0.4%とわずかに前年割れとなった。一方、生乳生産量(日均量)は、前年同期比+0.3%と3カ月ぶりに上回った。地域別に見ると北海道では、分娩時期のズレで夏産みの頭数が増えたことに加え、昨年に比べ比較的涼しい天候が続いたことなどを背景に+2.7%となった。一方、都府県では▲3.0%と2カ月連続で前年水準を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から9月下旬まで4旬連続で前年水準を上回っている。一方、都府県は酷暑が続いた影響などで6月中旬から9月下旬まで前年割れとなっている。

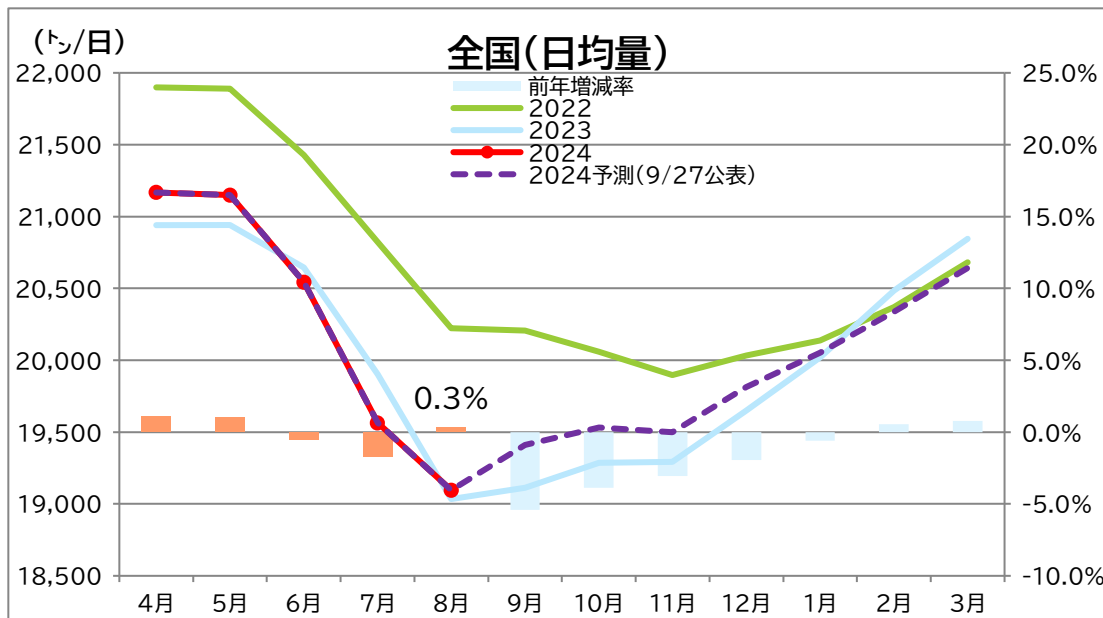
・生乳生産量の増と飲用等向け数量の減などを受け、脱脂粉乳の8月の生産量は+7.3%と3カ月ぶりに前年越えとなった。推定出回り量は、前年同月に比べて在庫低減対策の数量が少なかったことなどから▲10.3%と2カ月連続で前年割れとなった。単月での脱脂粉乳需給は供給量が需要量を下回り月末在庫量は50.9千ト(▲19.7%)に。在庫量は23週連続で前年水準を下回っている。バター生産量はほぼ前年並みで、推定出回り量は14週ぶりに前年水準を上回り+3.9%となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.7千ト)も考慮すると、在庫量は前月から0.2千ト減少し、27.5千ト(▲2.2%)となった。

・牛乳類の9月の販売動向について、牛乳は前年同月比▲0.7%と2カ月ぶりに前年水準を下回った。成分調整牛乳や乳飲料も前年割れとなった一方、加工乳は+1.5%と6カ月連続で前年超えとなったが、牛乳類の合計では前年水準を下回った。価格改定から一巡する中ではあるが、牛乳類の消費は伸び悩んでいるため、引き続き牛乳類の需要拡大に向けた取り組みが求められる。なお、店舗業態別にみると、コンビニや非チェーンのスーパー、ホームセンター、ドラッグストアが価格改定一巡後も減少傾向が継続している。直近(9/30週)の販売動向は、前年が大きく落ち込んだ反動もあり牛乳は前年比+3.7%と3週ぶりに前年を超え、牛乳類トータルでも+2.1%と16週ぶりに前年超えとなった。はっ酵乳の販売個数は個食タイプ、大容量タイプが前年水準を上回った。ドリンクタイプは前年割れとなったが、3品目のトータルでは4週ぶりに前年越えとなった。家庭用バターは、価格が高止まりする中、5週連続で前年水準を下回っている。

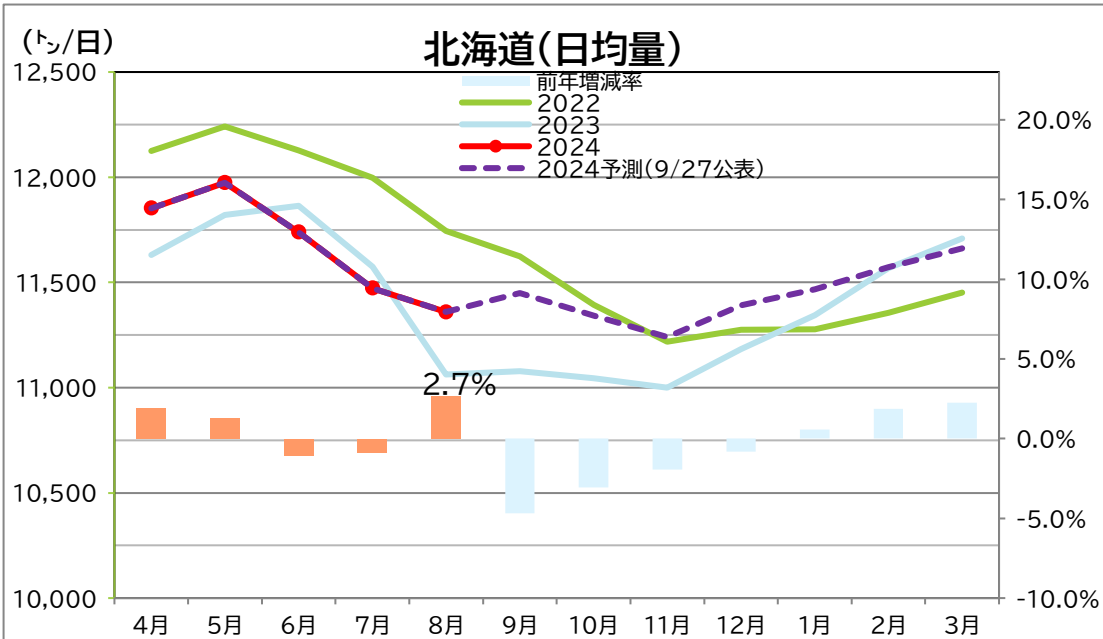
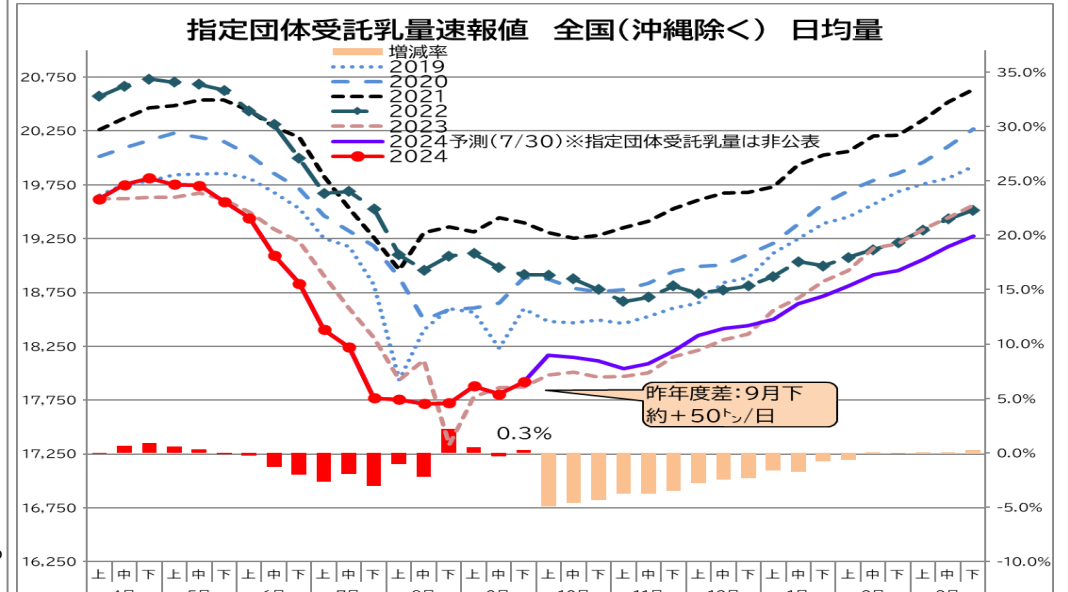
【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)8月の生乳生産量は、全国592.0千ト(前年同月比99.7%)、北海道352.1千ト(同97.3%)、都府県239.8千ト(同97.0%)。

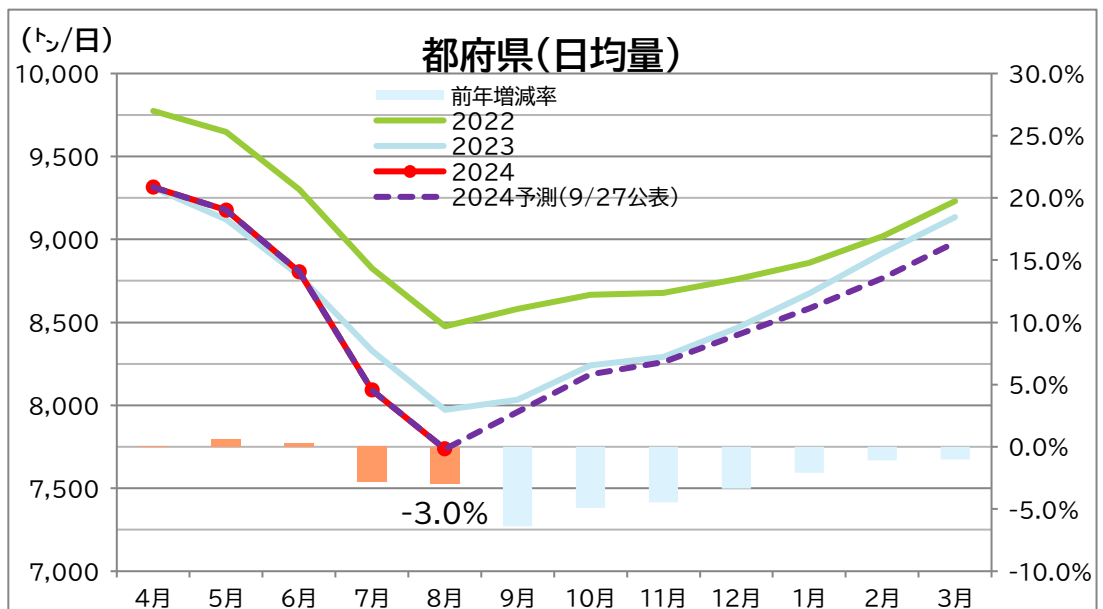
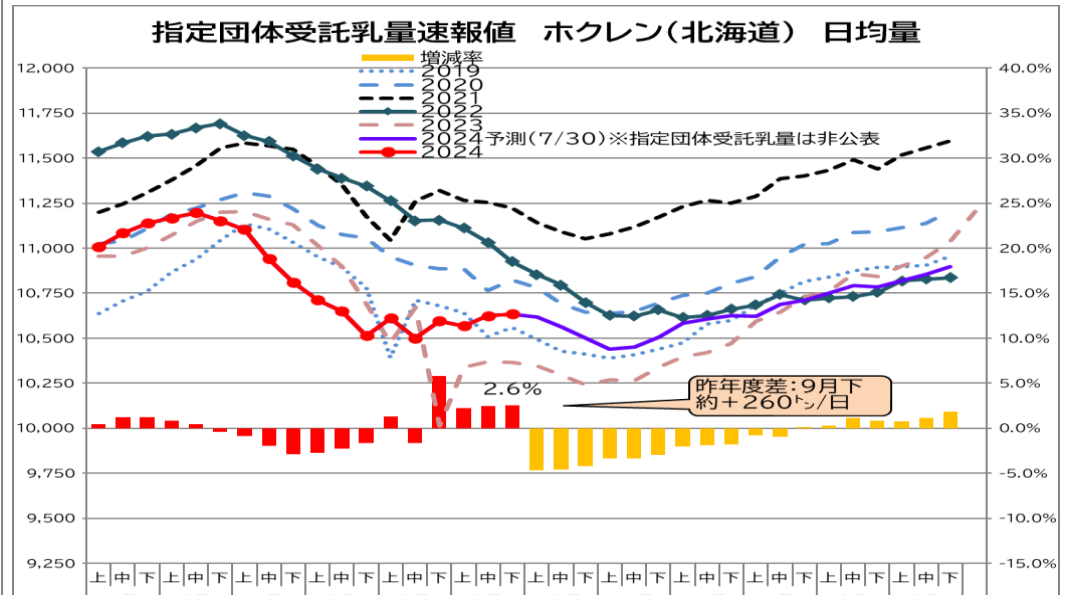
(2)7月に公表したJミルク予測値(全国602.7千ト、北海道356.8千ト、都府県246.0千ト)との比較は北海道、都府県ともに下振れとなった。



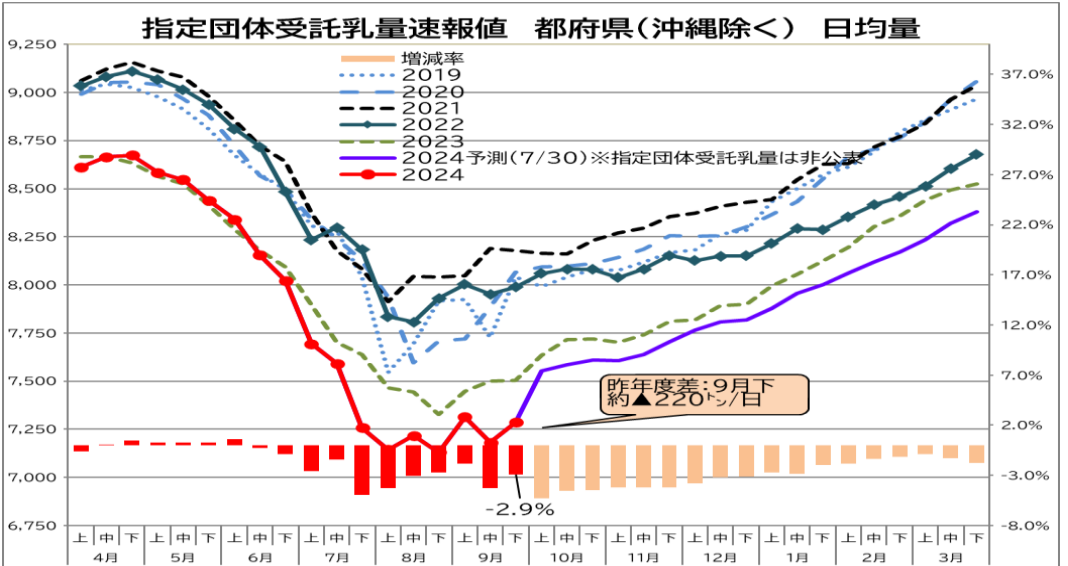
指定団体受託乳量速報値 全国(沖縄除く)※9月下旬



指定団体受託乳量速報値 ホクレン※9月下旬



指定団体受託乳量速報値 都府県(沖縄除く)※9月下旬

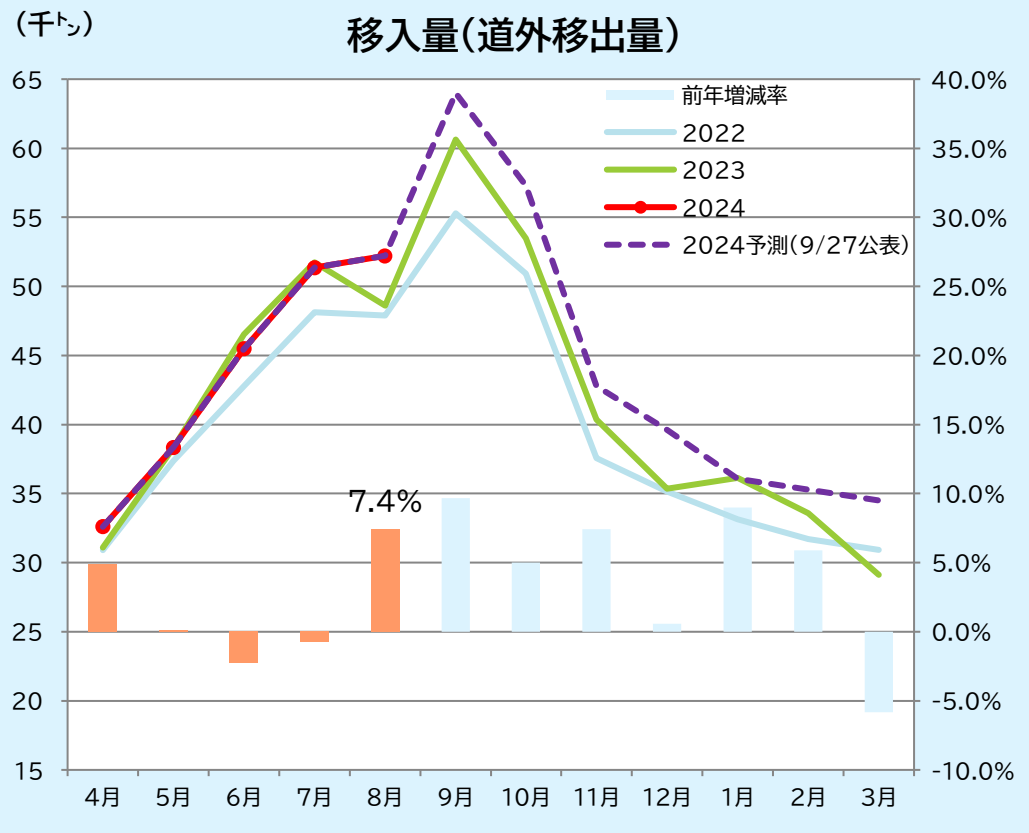
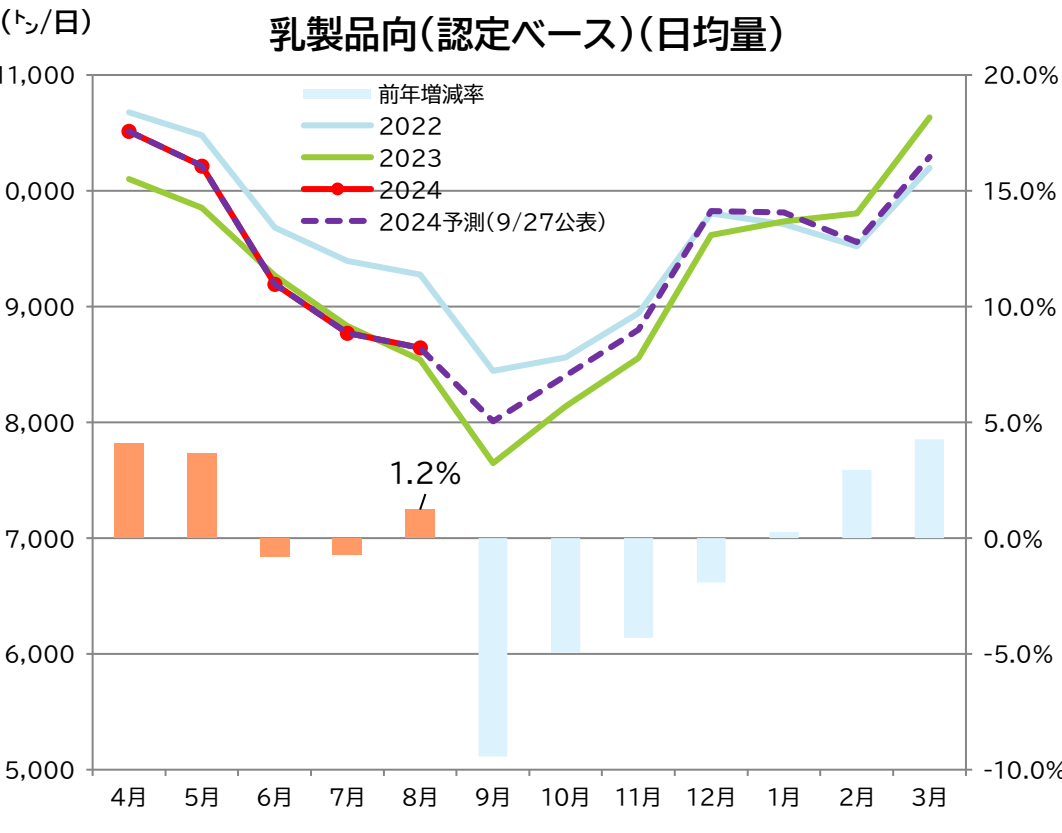
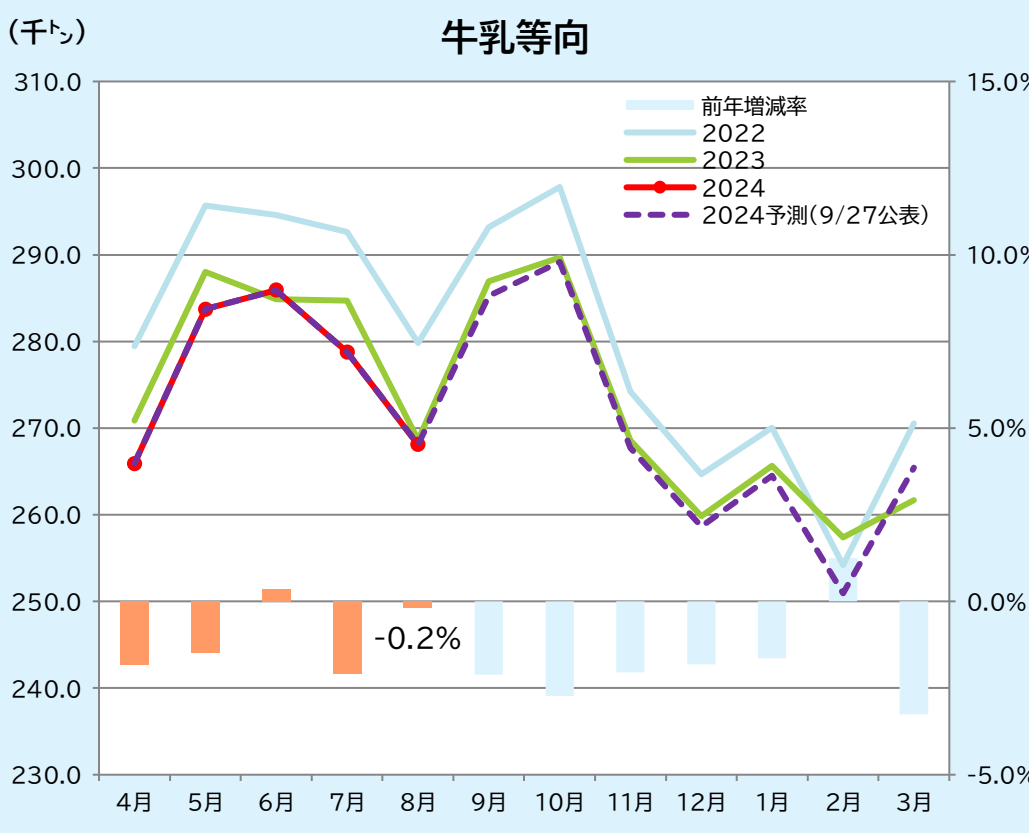
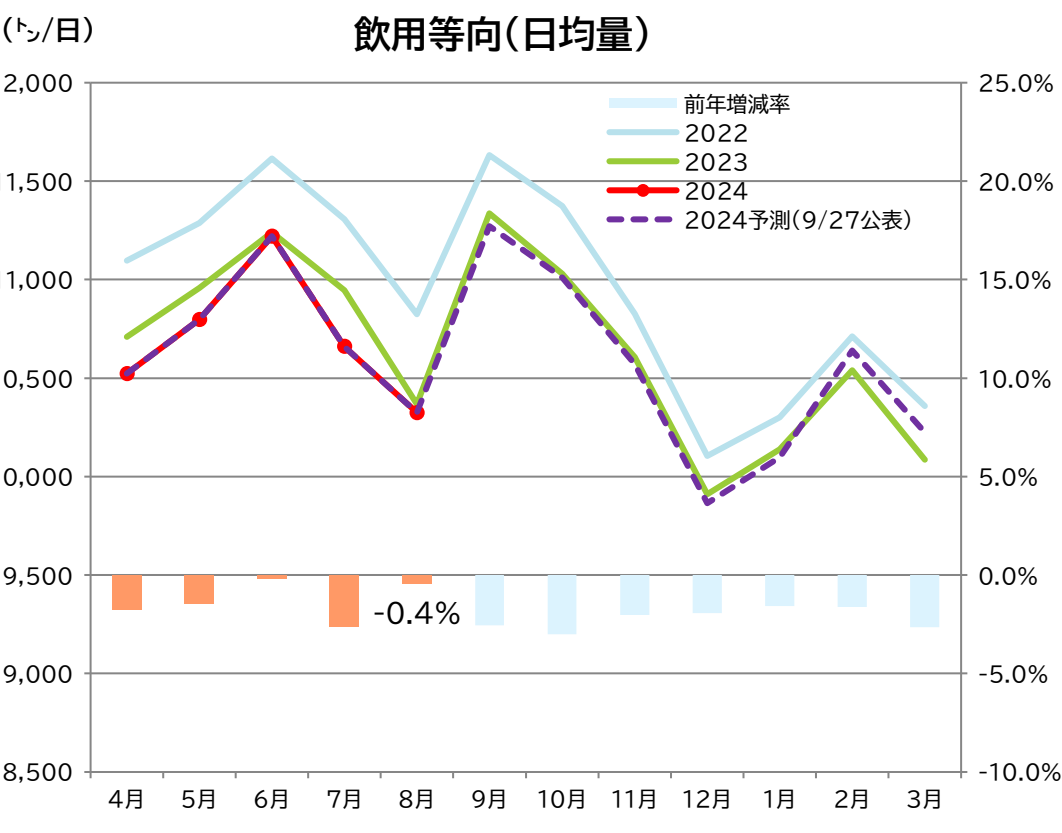
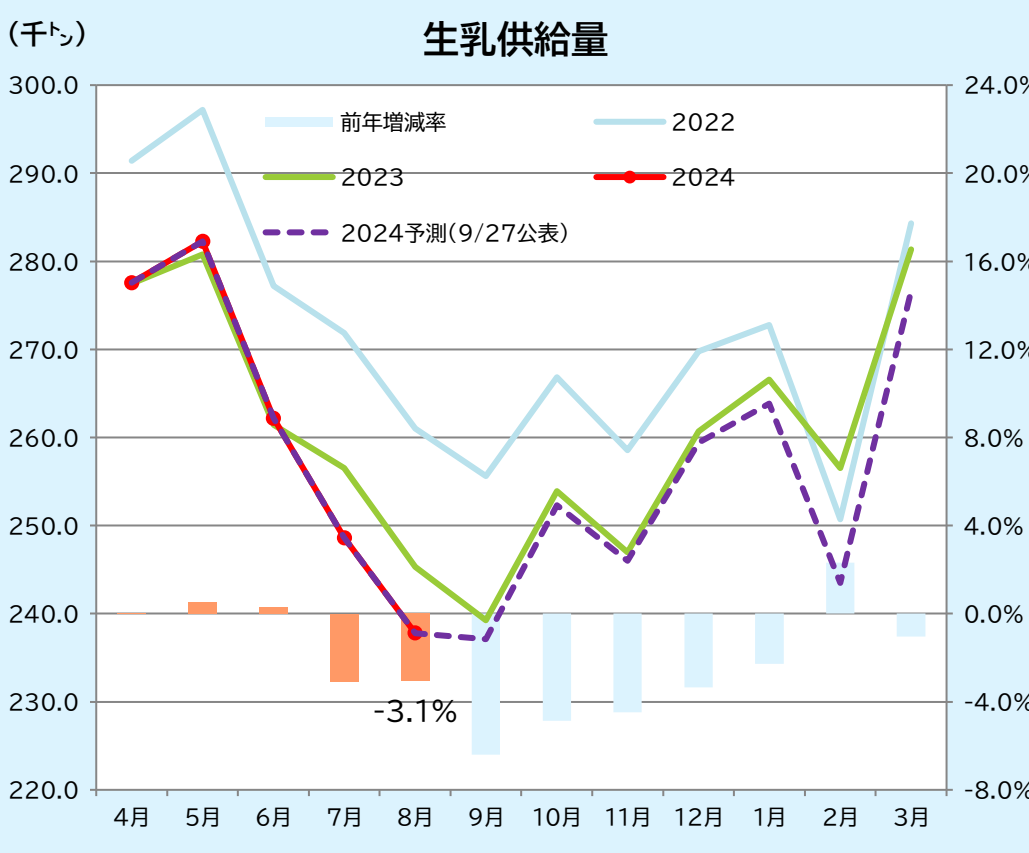
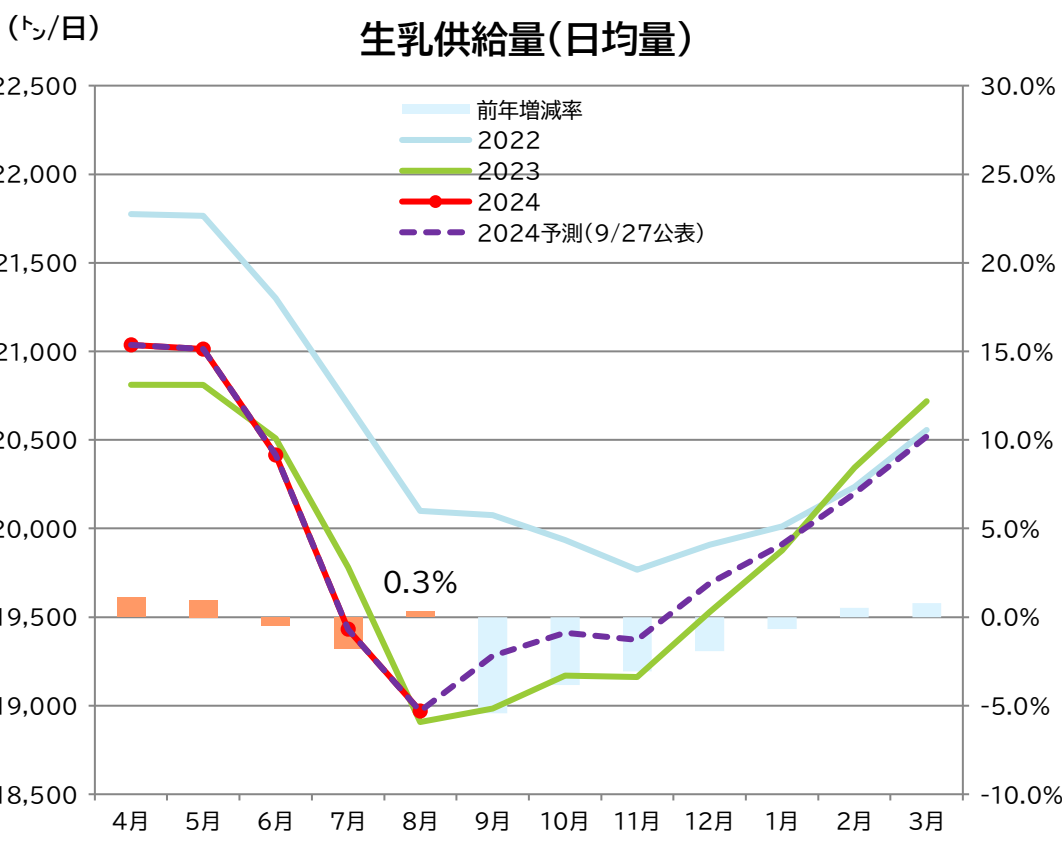


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)8月の生乳供給量は588.0千ト(前年同月比100.3%)、飲用等向320.1千ト(同99.6%)、乳製品向(認定ベース)268.0千ト(同101.2%)。
 (2)飲用等向が前年を下回った一方、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も前年を上回った。
 (3)7月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:598.7千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:321.8千ト)も下振れし、乳製品向(予測値:276.9千ト)も下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)8月は、生乳供給量237.8千ト(前年同月比96.9%)、牛乳等向268.1千ト(同99.8%)。
 (2)北海道からの移入量については52.2千ト(同107.4%)と前年を上回った。
 (3)7月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:244.1千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:268.9千ト)も下振れ、北海道での生産量減少などの影響を受け移入量(予測値:54.5千ト)も下振れした。

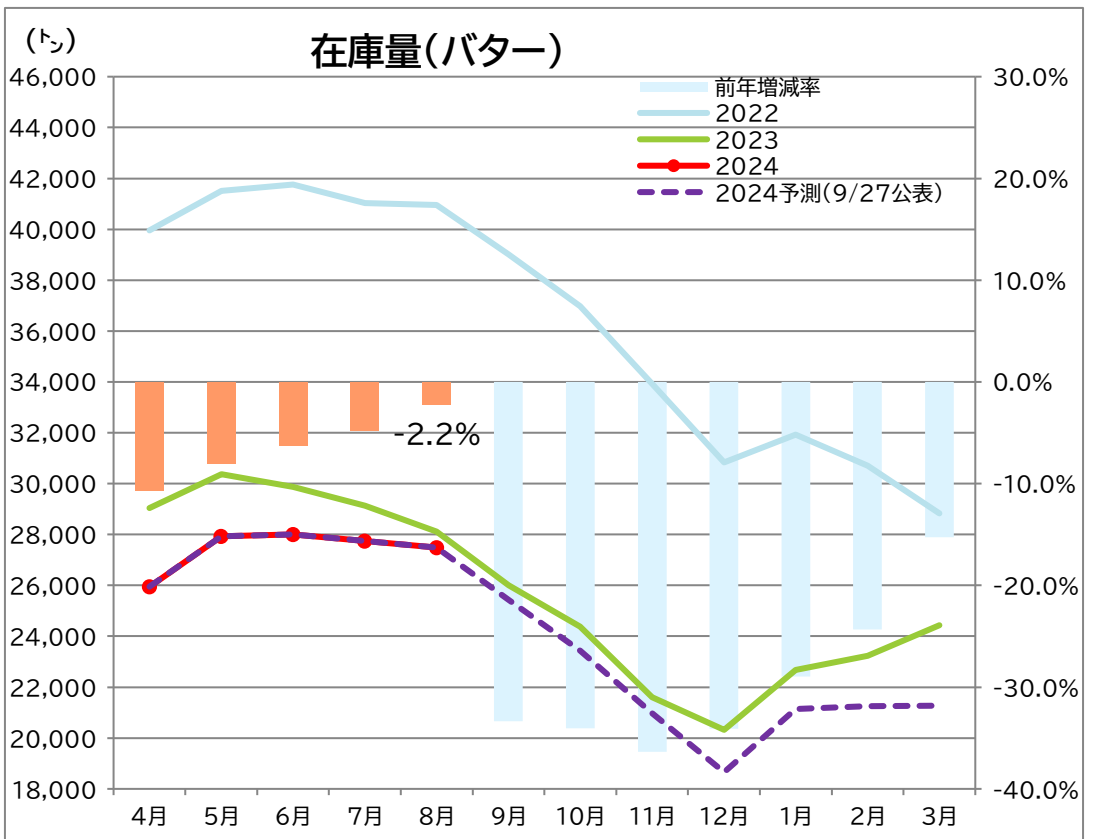
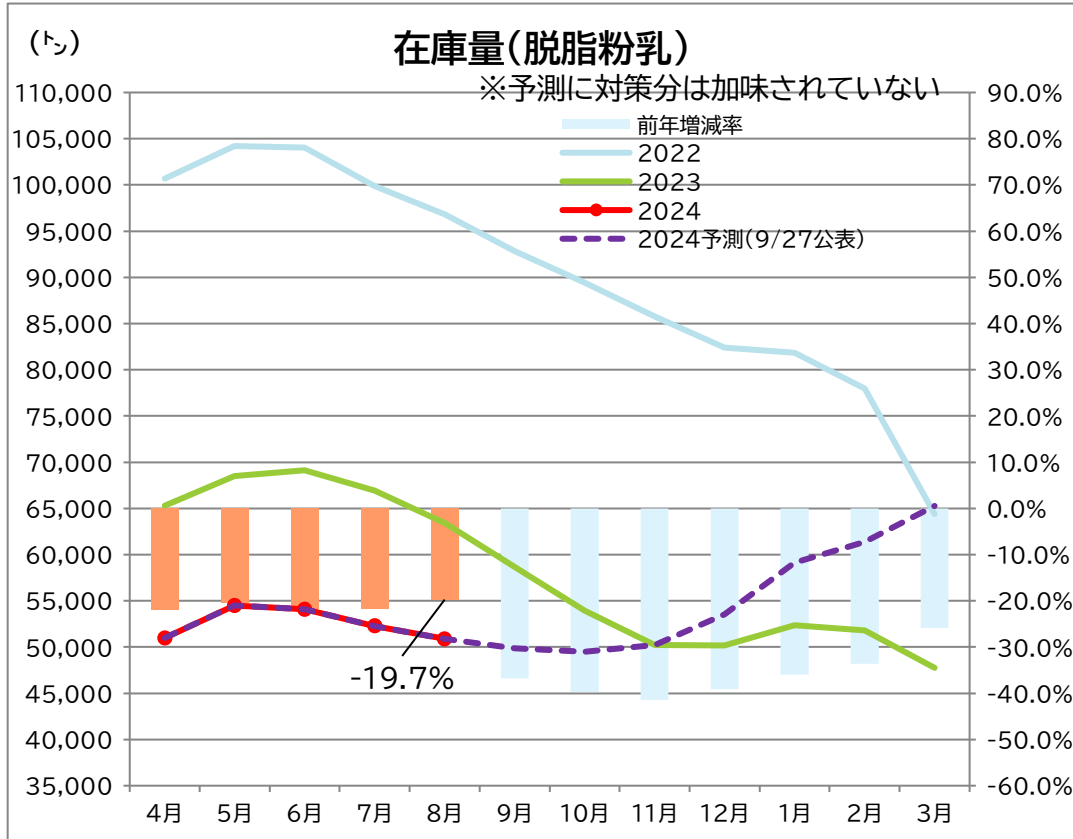
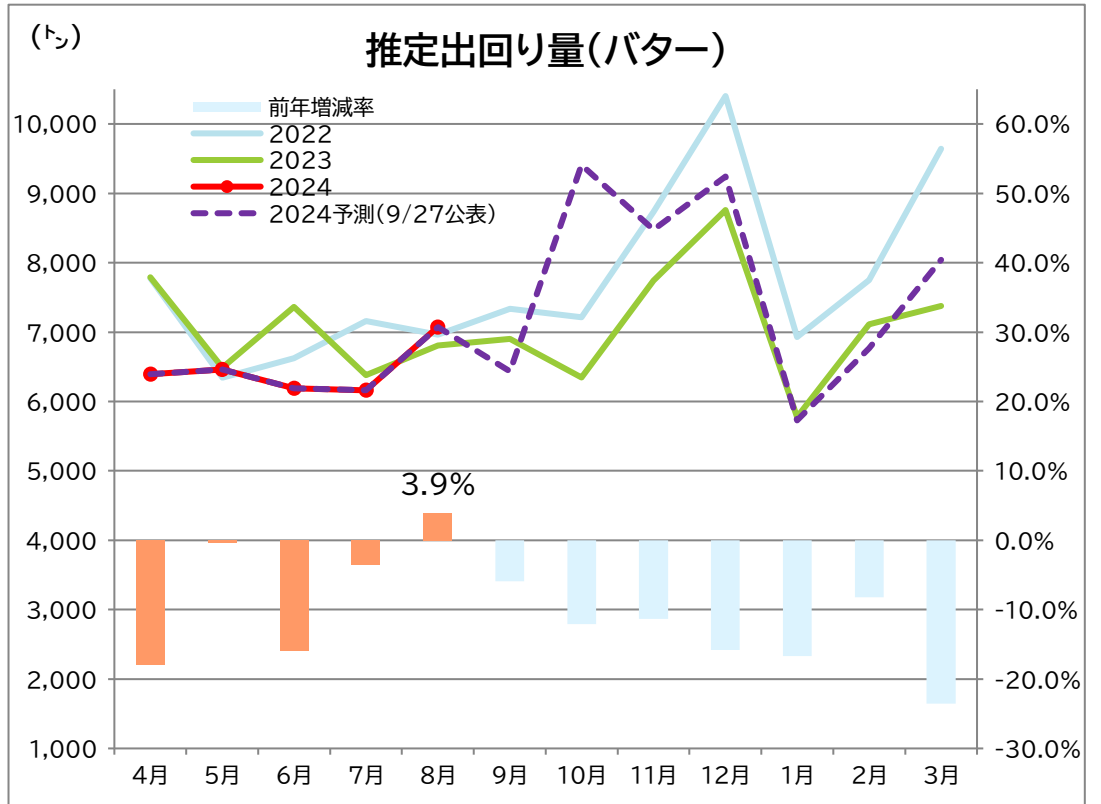
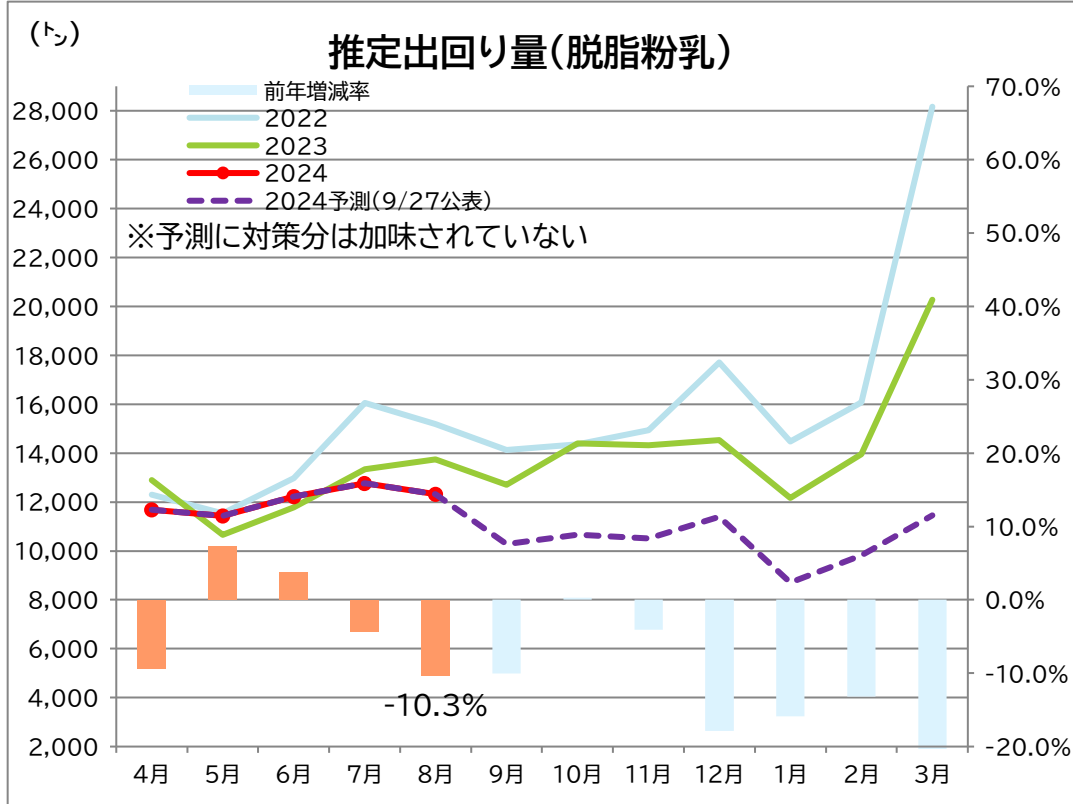
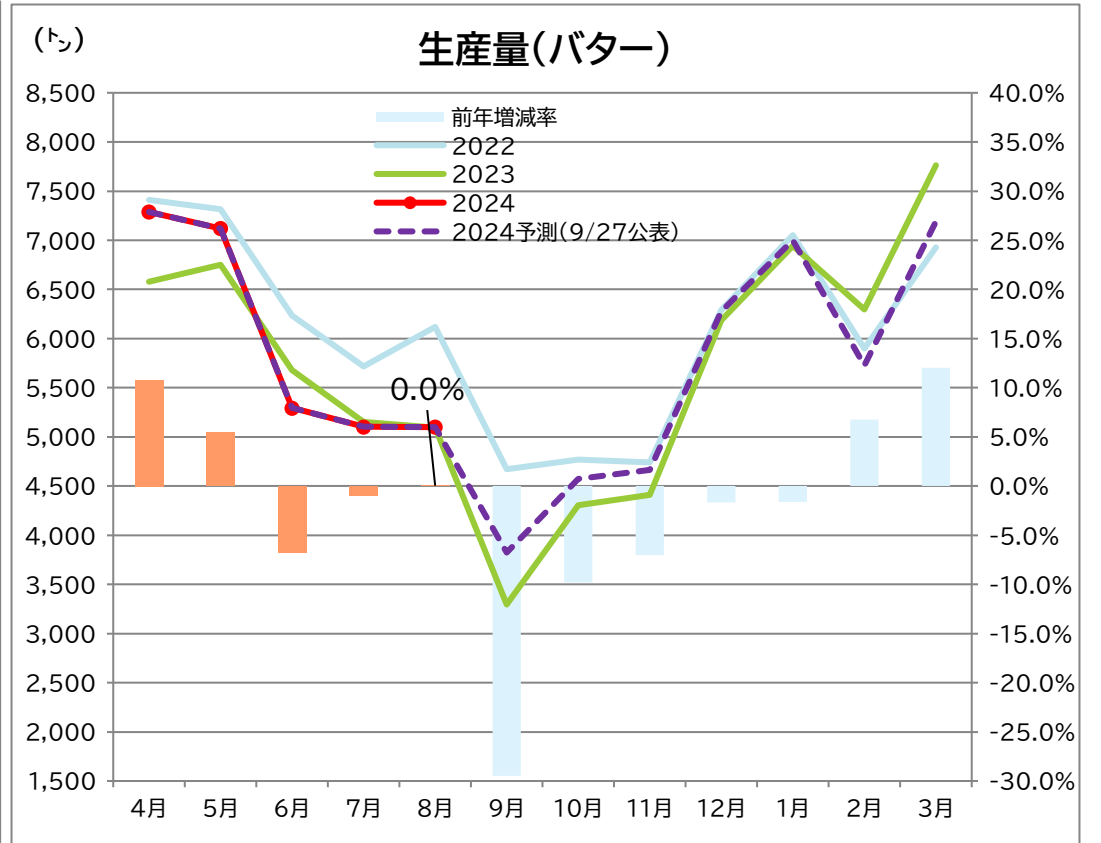
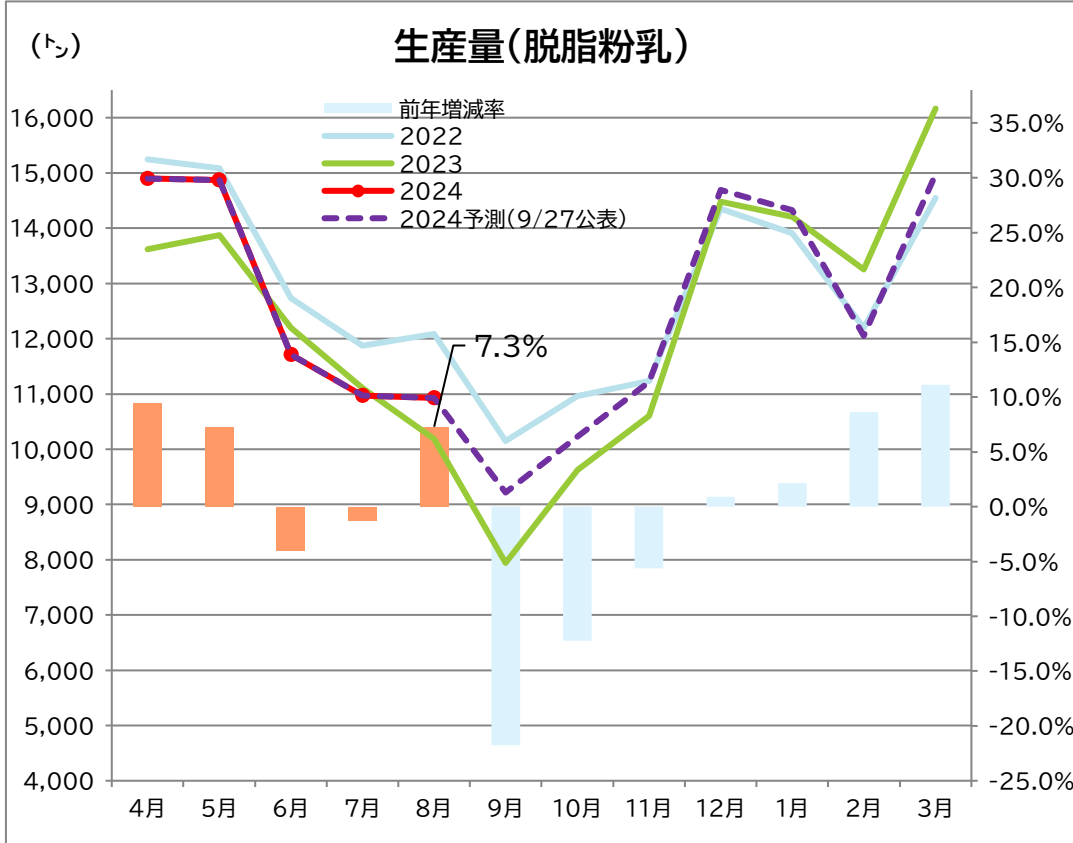


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、8月の生産量は10.9千ト(前年同月107.3%)、推定出回り量は12.3千ト(同89.7%)となった。出回り量が生産量を上回ったため、在庫量は前月から1.4千ト程度減少し、50.9千ト(同80.3%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には約8年振りに4万ト台となっていた。 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、8月の生産量は5.1千ト(同100.0%)、推定出回り量は7.1千ト(同103.9%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは3カ月ぶり。国家貿易による輸入売渡分(約1.7千ト)も考慮すると在庫量は前月から約0.2千ト減少し27.5千ト(同97.8%)となった。在庫量は28カ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)9月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比99.3%、成分調整牛乳:同90.6%、加工乳:同101.5%、乳飲料:同92.0%。牛乳類全体:同97.6%

【参考】2022年9月比…牛乳:95.8%、成分調整牛乳:74.1%、加工乳:101.6%、乳飲料:99.5%(牛乳類トータル:94.8%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(9/30週)の販売個数は、牛乳:前年同期比103.7%、成分調整牛乳:同98.0%、加工乳:同107.6%、乳飲料:同95.0%。牛乳類トータルでは同102.1%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

※2024年6月のみ、販売データの対象となる業態についてホームセンターのうちディスカウント型店舗が対象外となっております。

販売本数の前年比は、過去のデータも同じ業態にそろえて比較しております。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

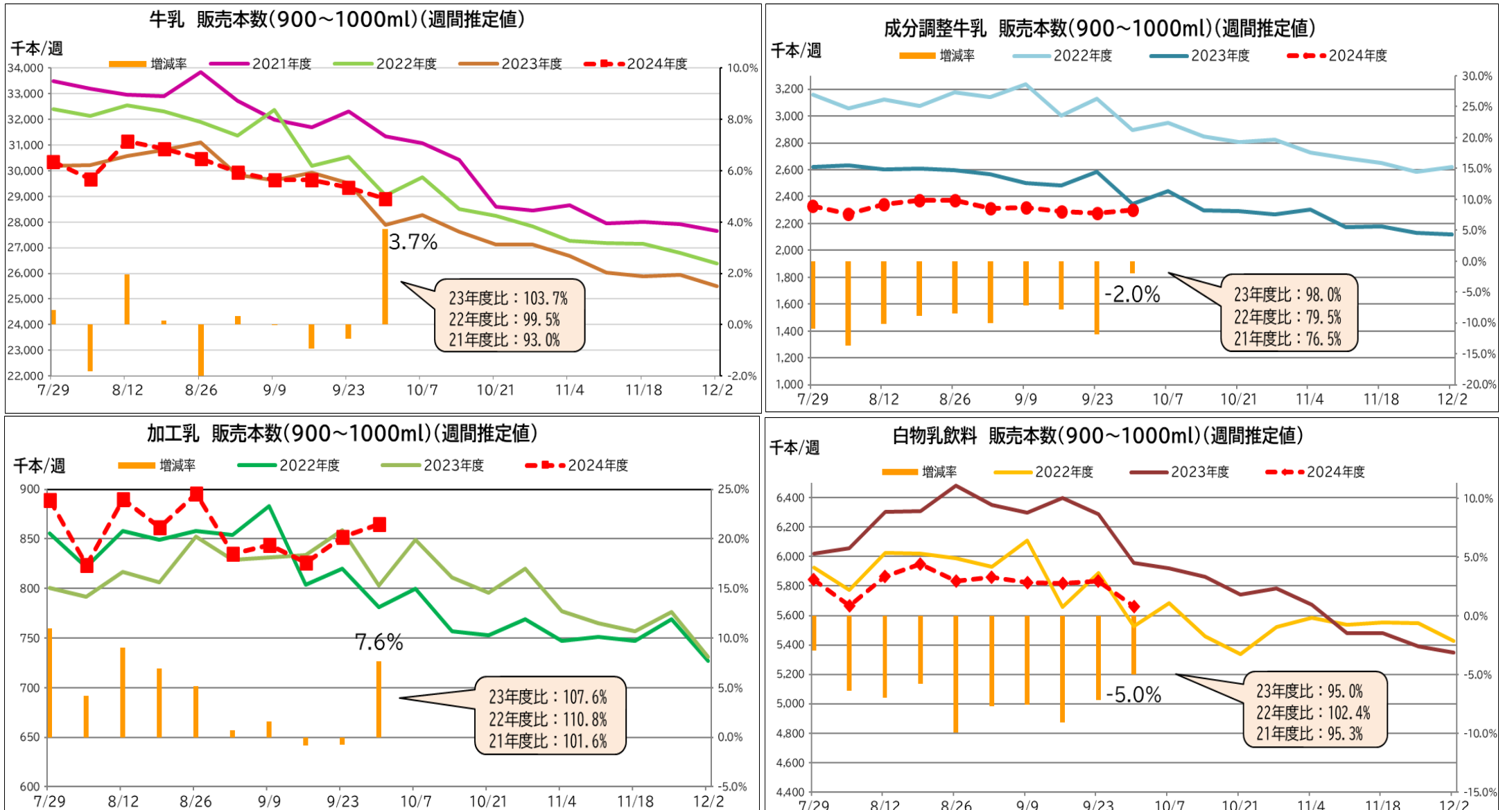
単位:千個、円

品目	区分	2024/4-	2024/5-	2024/6-	2024/7-	2024/8-	2024/9-	2024/9- 2022/10価格差	2024/9- 2023/3価格差	2024/9- 2023/7価格差
		販売個数	152,983	158,129	162,342	168,873	175,296	165,980		
トータル	販売個数前年比	97.6	96.4	101.1	95.3	99.1	97.6	33.0	17.9	16.1
	販売単価	215.7	215.8	215.6	216.0	216.8	216.1			
牛乳	販売個数	117,020	120,893	124,376	129,480	135,341	127,378			
	販売個数前年比	97.9	96.4	101.0	95.4	100.7	99.3	35.0	18.7	17.9
成分調整牛乳	販売個数	9,241	9,425	9,694	10,098	10,338	9,883			
	販売個数前年比	85.8	84.3	88.2	84.3	89.9	90.6	34.3	18.6	15.1
加工乳	販売個数	3,363	3,624	3,616	3,823	3,831	3,646			
	販売個数前年比	105.1	112.3	116.4	109.2	107.8	101.5	29.7	20.0	9.0
乳飲料	販売個数	23,360	24,188	24,655	25,472	25,786	25,073			
	販売個数前年比	100.7	99.6	105.5	97.7	94.0	92.0	23.3	12.7	9.0
	販売単価	173.5	173.3	173.1	173.1	173.3	172.8			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	8.12-	8.19-	8.26-	9.2-	9.9-	9.16-	9.23-	9.30-	24.9.30- 29.10.24 価格差	24.9.30- 23.3.20 価格差	24.9.30- 23.7.24 価格差
		販売個数	40,259	40,046	39,569	38,940	38,625	38,571	38,310	37,746		
トータル	販売個数前年比	99.9	98.8	96.4	98.4	98.4	97.3	97.6	102.1	32.5	17.6	15.2
	販売単価	216.9	216.5	216.9	216.0	216.4	216.3	216.2	215.7			
牛乳	販売個数	31,164	30,863	30,464	29,933	29,636	29,636	29,344	28,918			
	販売個数前年比	102.0	100.2	97.9	100.3	100.0	99.1	99.5	103.7	34.6	18.3	17.1
成分調整牛乳	販売個数	2,340	2,374	2,372	2,310	2,321	2,290	2,280	2,302			
	販売個数前年比	89.9	91.1	91.5	90.0	92.8	92.2	88.2	98.0	32.6	17.7	13.1
加工乳	販売個数	890	862	896	835	844	826	852	865			
	販売個数前年比	109.0	106.9	105.2	100.7	101.6	99.1	99.1	107.6	26.1	15.8	5.2
乳飲料	販売個数	5,864	5,947	5,836	5,862	5,824	5,818	5,834	5,661			
	販売個数前年比	93.0	94.2	90.0	92.3	92.4	90.9	92.8	95.0	23.0	13.2	8.5
	販売単価	173.5	172.8	173.2	173.0	172.6	172.9	172.8	172.7			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(9/30週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回る推移となっている。(3品目合計前年同期比:100%以上)。

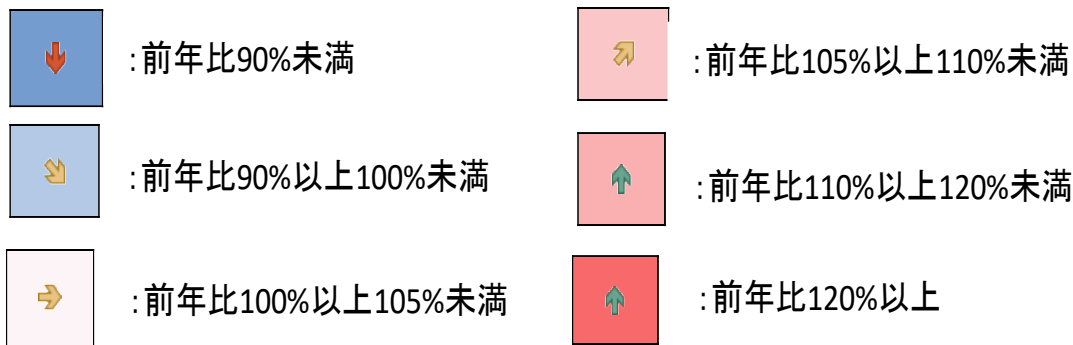
(2)販売個数について、前週(9/23週)との比較では、ドリンクタイプと大容量タイプが増加した一方、個食タイプは減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	8.12-	8.19-	8.26-	9.2-	9.9-	9.16-	9.23-	9.30-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	→
大容量タイプ	→	→	↘	→	→	→	→	→



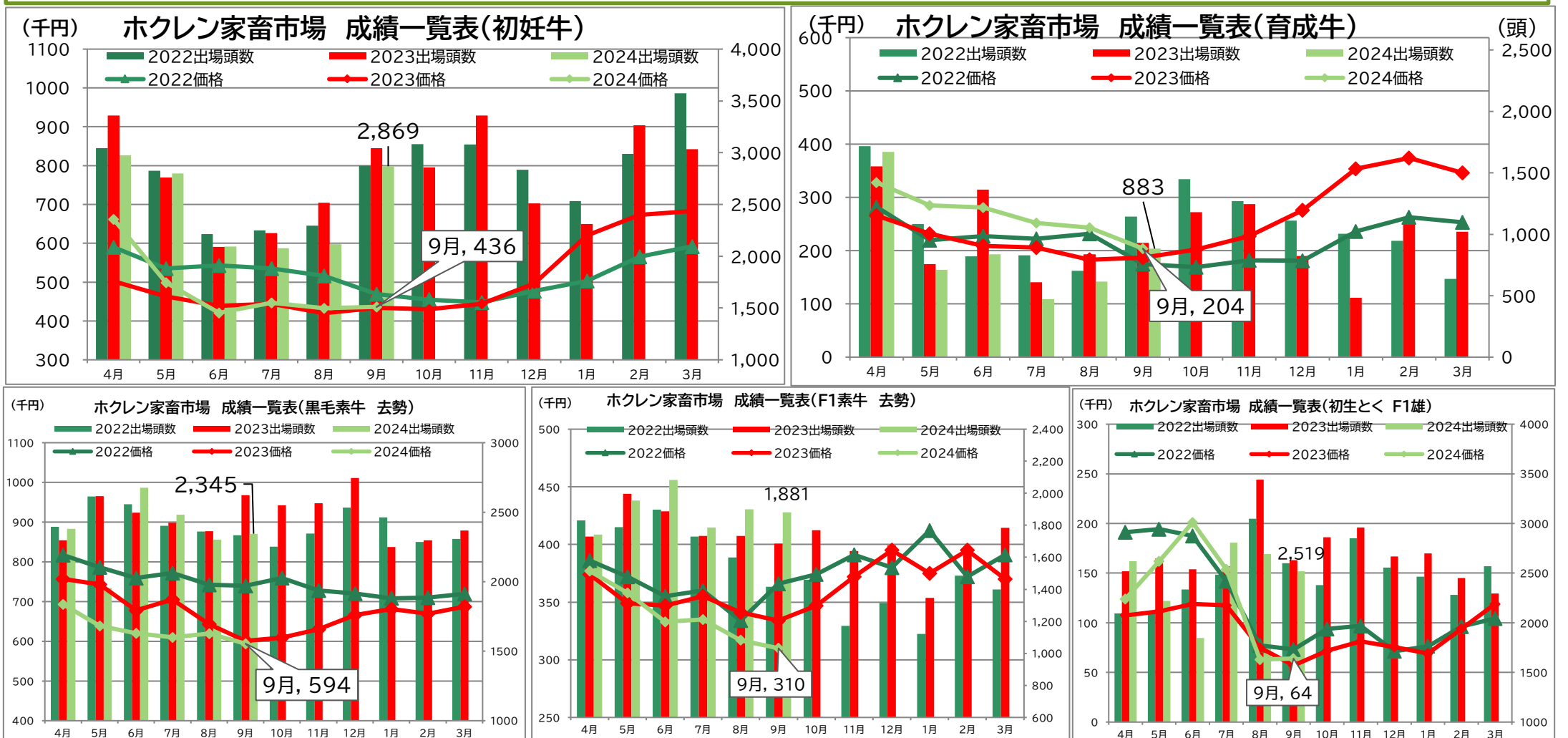
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)8月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は436千円(前年同期比100.5%)、育成牛価格は204千円(同109.1%)、和牛素牛(去勢)価格594千円(同98.8%)、F1素牛(去勢)価格は310千円(同92.8%)。初妊牛は5カ月連続で40万円台となり、育成牛についても5カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は10千円(同32.4%)と、2カ月連続で20千円を下回り前年同月比が30%台となった(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同94.3%、育成牛:同94.8%、F1初生(雄):同95.8%、和牛素牛(去勢):同89.4%、F1素牛(去勢):同111.6%。

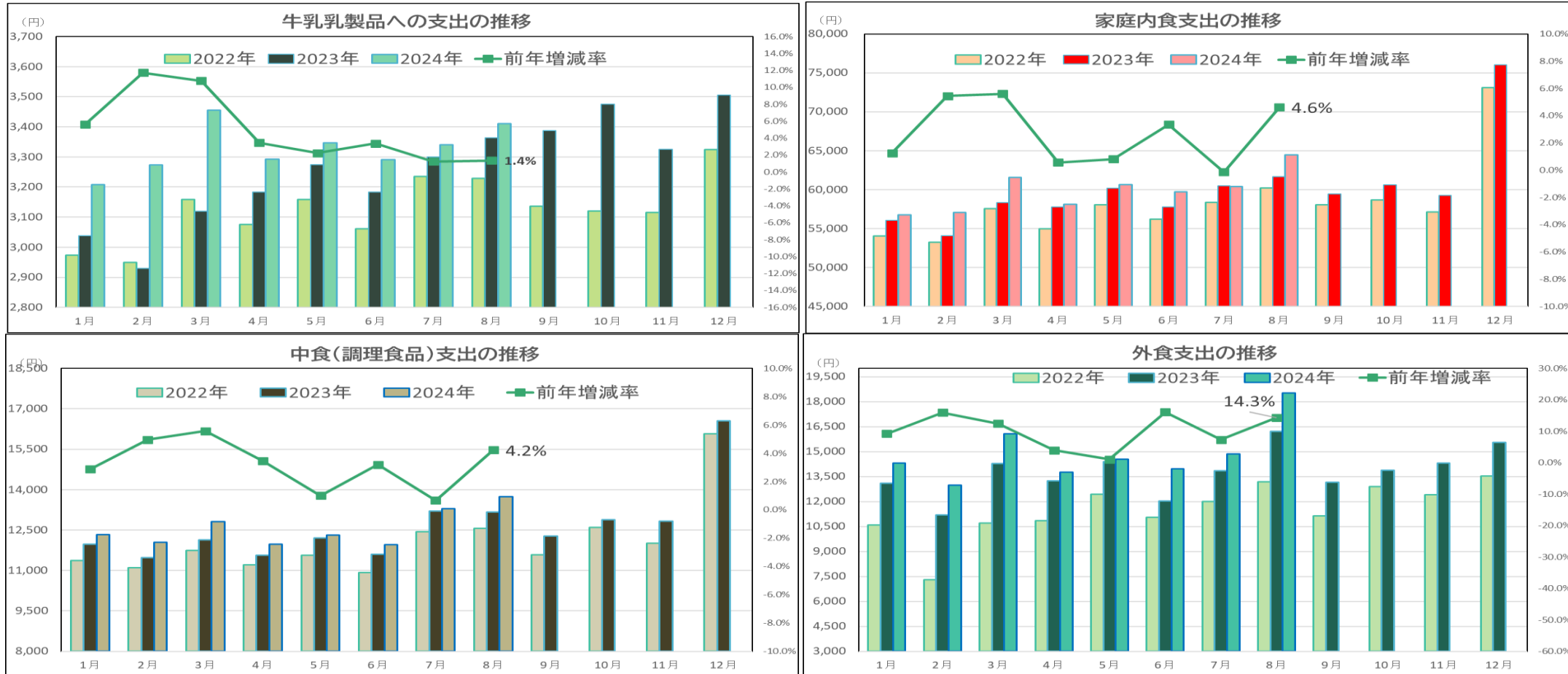
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【家計支出の動向】

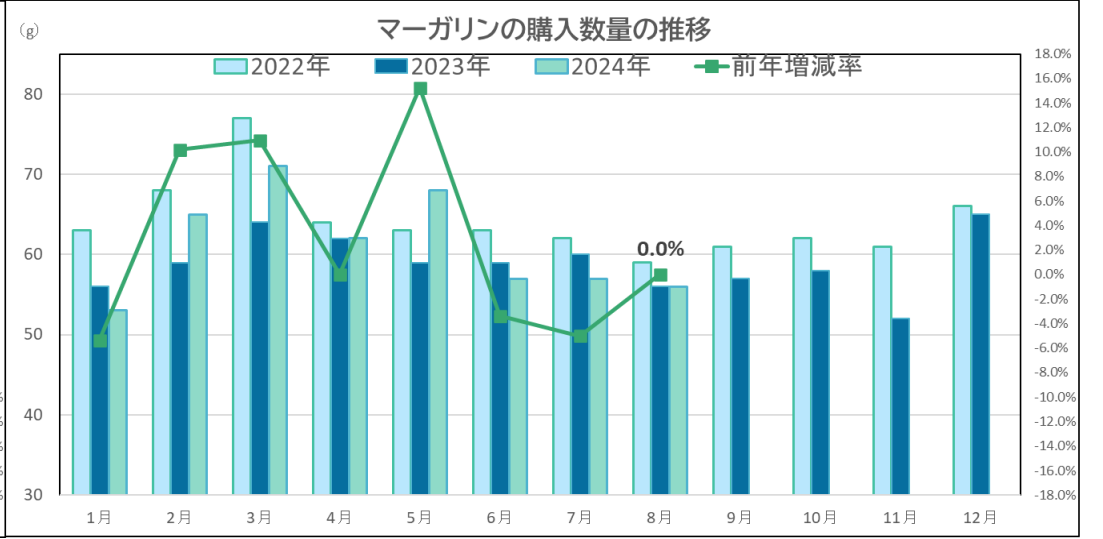
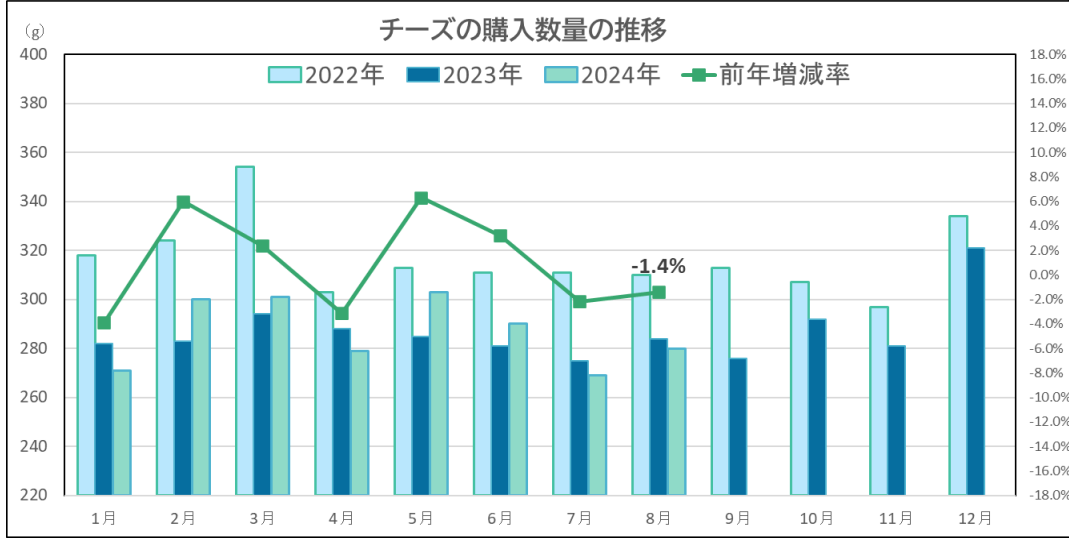
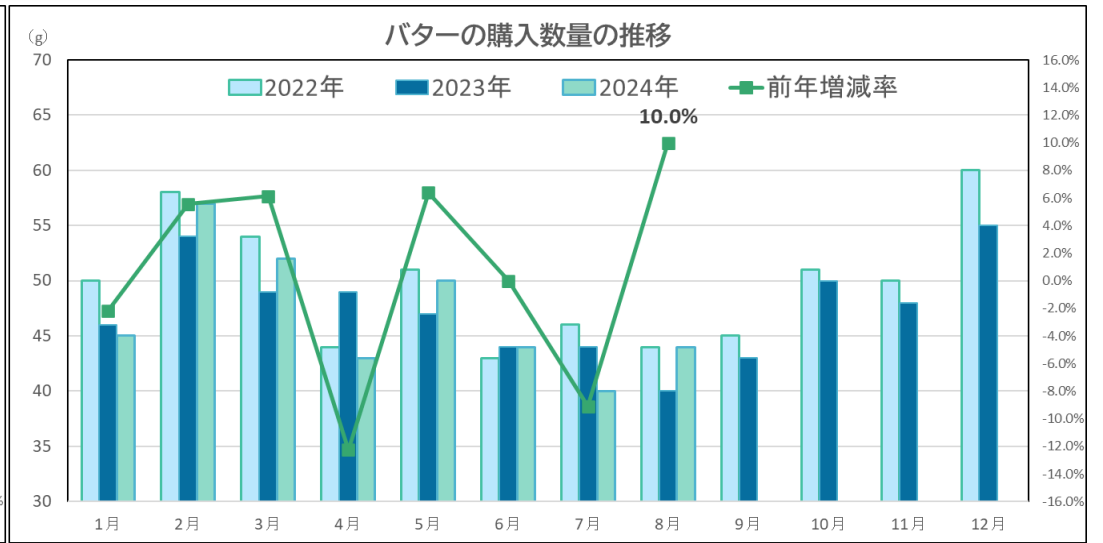
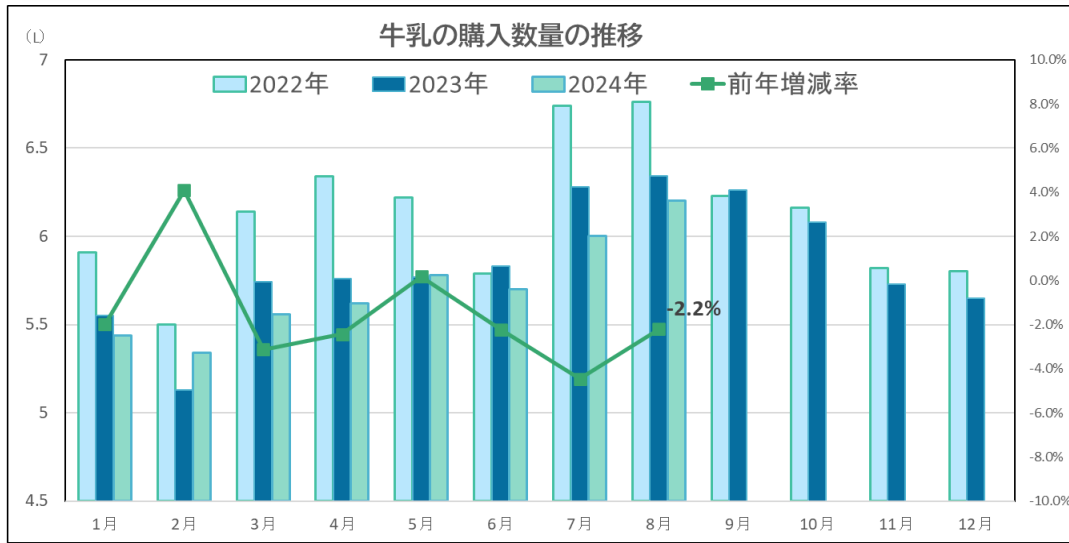
- (1)8月の支出額前年比について、外食114.3%、中食100.7%、内食104.2%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は106.3%となった。
- (2)牛乳乳製品の支出額も前年比101.4%(うち牛乳97.8%、乳製品104.1%)と17カ月連続で前年を上回った。
- (3)なお、購入量は、牛乳97.8%(1世帯当たり6.2L)と3カ月連続で前年割れ。チーズも前年割れとなった一方、バターは前年超えとなった。

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



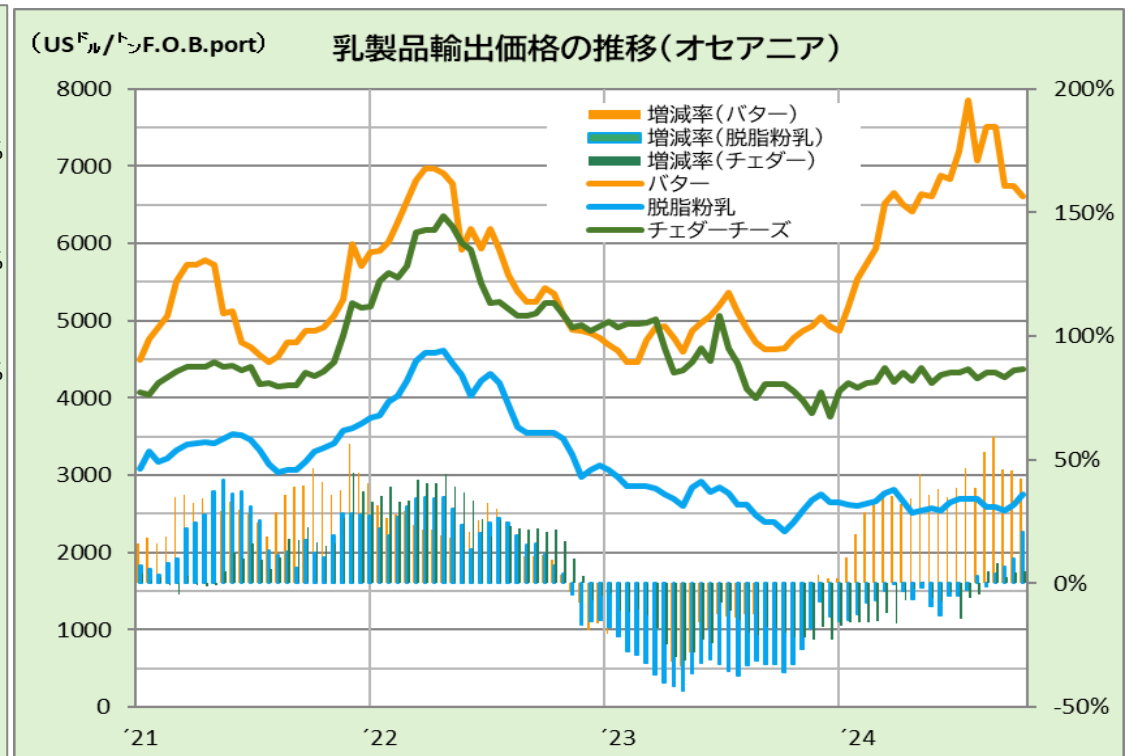
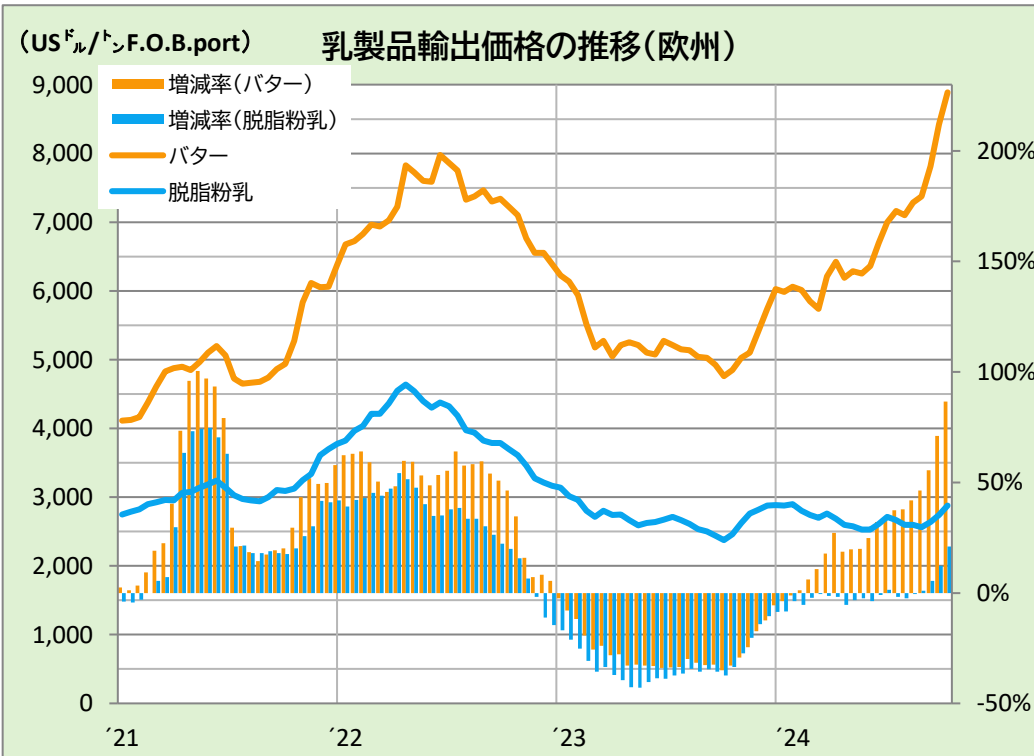


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(9月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,875ドル/ト、バター8,888ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター6,613ドル/ト、チェダーチーズは4,375ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」